＜高等学校学習指導要領抜粋＞

第２節　教科の目標

人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的にとらえ，家族・家庭の意義，家族・家庭と社会とのかかわりについて理解させるとともに，生活に必要な知識と技術を習得させ，男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する能力と実践的な態度を育てる。

今回の改訂においては，「生きる力」の理念を具現化させるために，消費者教育や環境教育，食育の推進，少子高齢化等への対応を重視し，家族や生活の営みを人の一生とのかかわりの中で総合的にとらえ，生活を主体的に営む能力と実践的な態度を育てること，男女が協力して家庭や地域の生活を創造する能力を育てることなどを目指して，共通教科としての家庭科の目標を示した。

共通教科としての家庭科では，人々が互いにかかわり合いながら共に生きる社会の一員としての自覚の下で，男女が協力して家庭生活を築いていく意識と責任をもたせ，生活に必要な知識と技術を身に付けて，主体的に家庭や地域の生活を創造する能力と実践的な態度を育てることを目標としている。

すなわち，家族・家庭についての理解，共に生きる生活観の育成，家庭生活の様々な事象の原理 ・原則についての科学的理解，理解したことを実際の生活の場で活用するための技術の習得，生活を総合的に認識し，適切に判断する意思決定能力，課題を解決する問題解決能力など，生涯を見通して主体的に生きる力を育成し，家庭や地域の生活を創造できるようにすることを目指している。

「人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的にとらえ」とは，人間が生まれてから死ぬまでの間，身体的，精神的に変化し続け，各ライフステージの課題を達成しつつ発達するという生涯発達の考えに立ち，乳幼児期，児童期，青年期，壮年期，高齢期など，人の一生という時間の経過の中で，生活の営みに必要な金銭，生活時間，人間関係などの生活資源や，衣食住，保育，消費などの生活活動にかかわる事柄を，相互に関連させて理解することを示している。

家庭や地域の生活は，個人，家族，社会及び環境との相互関係によって成り立っており，多面的，総合的であるといえる。社会の変化に対応しつつ主体的に生活を営む力を身に付けるためには，生活上の知識や技術を断片的に習得させるだけでなく，生活資源や生活活動などを生涯の生活設計やキャリアプランニングなどと関連付けて取り扱うことが重要である。このような取扱いをすることによって，生徒自身が現在及び将来の生活を自立的に営み，男女が 協力して家庭を築いていくという実践的な態度を育てることができる。

「家族・家庭の意義，家族・家庭と社会とのかかわりについて理解させる」とは，生命をはぐくんだり生活をしたりする基盤としての家族・家庭の意義を理解させるとともに，家族・家庭が社会とのかかわりの中で機能していることについて理解させることを示している。

家庭の機能，家族構成や家族規模，ライフスタイルなどが大きく変化する中でも，特に，生命をはぐくみ生活能力や生活文化を伝える環境として，情緒面の充足と安定をもたらし人格の形成を図る，家族・家庭の意義を認識させるようにする。その上で，家庭生活は家族自身の主体性により営まれてはじめてその機能を発揮することを認識させ，互いに協力して生活を創造しようとする意欲

へとつなげることが重要である。また，婚姻，夫婦，親子，福祉，消費などに関する法律や制度によって社会の秩序が保たれ，個人が保護されていることを認識し，家族・家庭と社会とのかかわりについて理解させるようにする。

このように，家族・家庭の意義，家族・家庭と社会とのかかわりについて理解させることにより，性別や世代を超えて，男女が家族や社会の中で平等な関係を築き，共に生きる社会の一員として役割と責任を果たし，家庭や地域の生活を主体的に創造していくことが重要であることを認識させることを重視している。

「生活を必要な知識と技術を習得させ」とは，生活を営むために必要な，衣食住，家族，保育，消費，環境などに関する知識と技術を実践的・体験的な学習を通して習得させることを示している。

家庭科においては，衣食住生活，消費生活など生活の自立を図ることや生活の充実向上を目指した問題解決能力を育成することをねらいとしている。高等学校段階では，小学校，中学校における学習の上に立ち，生活にかかわる経済的な視点や生活文化の伝承と創造の視点を踏まえて，持続可能な社会の構築に向けて，科学的な根拠に基づいた実践力を身に付けることが重要である。すなわち，家庭科のねらいは，理解させるだけでなく，健康や環境に配慮した生活の実践力の育成と持続可能な社会を目指す上で必要なライフスタイルを確立できるようにすることであり，学習方法としては，生活の中で活用する視点を明確にした実践的・体験的な学習を中心としている。

「男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する能力と実践的な態度を育てる」とは，男女共同参画社会の推進を踏まえて，これまで示した家族・家庭の意義，家族・家庭と社会とのかかわりについて理解させるとともに，生活に必要な知識と技術の習得を通して，共に支え合う社会の一員として主体的に行動する意志決定能力を身に付け，男女が協力して家庭を築いていくことを認識させ，家庭や地域の生活を創造する能力と実践的な態度を育てることを示している。実践的な態度とは，学習で得たものを実際の生活に活用する態度であり，生活の各場面で課題を見いだし，その解決を図りながら，家庭生活や地域の生活の充実向上を果たす態度である。このように家庭科では，知識・技術の習得のみではなく，意志決定や問題解決をも含めた能力の育成を目指している。

以上のように，高等学校家庭科では，自己及び家族の発達と生活の営みに必要な知識と技術を，小学校家庭科，中学校技術・家庭科の上に積み重ねて習得させ，生活をよりよくするために主体的に実践できる能力と態度を育成することを目指している。小学校では家族の一員としての視点，中学校では自己の生活の自立を図る視点が重視されているが，高等学校では，社会とのかかわりの中で営まれる家庭生活や地域の生活への関心を高め，生涯を見通して生活を創造する主体としての視点が重要となる。持続可能な社会の構築を目指し，グローバルな視点に立って生活の現状を見つめ，なぜそうするのか，どうしたらよいかという課題意識をもつとともに，実践的・体験的な学習を通して衣食住，家族，保育，消費，環境など家庭生活の様々な事象の原理・原則を科学的に理解することと，及び，それらにかかわる知識と技術を実際の生活上の意志決定や問題解決に生かし，男女が協力して，家庭や地域の生活を主体的に創造する能力の育成を図ることをねらいとしている。

第３節　教科の科目構成

共通教科として家庭科の科目編成は以下のとおりである。

平成21年告示		平成11年告示	
科 目 名	標準単位数	科 目 名	標準単位数
家庭基礎 家庭総合 生活デザイン	２単位 ４単位 ４単位	家庭基礎 家庭総合 生活技術	２単位 ４単位 ４単位

共通教科としての家庭科においては，「家庭基礎」（２単位），「家庭総合」（４単位）及び「生活デザイン」（４単位）の３科目を設け，生徒の多様な能力・適性，興味・関心等に応じて必修科目として１科目を選択的に履修させる。

「家庭基礎」は，標準単位数が２単位の科目である。従前の「家庭基礎」から，人の一生を見通しながら自立して生活する能力と異なる世代とかかわり共に生きる力を育てることを重視して改善を図った。特に，家族・家庭及び福祉，衣食住，消費にかかわる基礎的・基本的な知識と技術を習得させ，生涯を見通して生活を設計する力を身に付けさせるようにした。

「家庭総合」は，標準単位数が４単位の科目である。従前の「家庭総合」に比べ，家庭や生活の営みを人の一生とのかかわりの中で総合的にとらえることを重視している。また，生涯を見通し生活を設計し創造する力，様々な人とつながり共に生きる力，生涯を通して健康で文化的な生活をつくり営む実践力，生活課題を見つけ自ら解決する力など，この科目で身に付けさせる能力を明確にするよう大項目(1)から(6)を構成し，その内容を示している。

「生活デザイン」は標準単位数が４単位の科目である。実験・実習等の体験学習を重視し，衣食住の生活文化に関心をもたせるとともに，生涯を通して健康や環境に配慮した生活を主体的に営むことができるように内容を構成した。この科目は，従前の「生活技術」を改編したものであるが，生活を改善し，豊かな生活を設計するという意味でデザインという言葉を使用している。デザインとは，設計する，企画する，目標をもつ，志すという意味があり，人がよりよい価値に向かって行動するために計画し，考えるという積極的な意味を含んでいる。すなわち，「生活デザイン」においては，生活の価値や質を高め，豊かな生活を楽しみ味わいつくる上で必要な実践力を育成することを重視している。また，一部の項目については，生徒の興味・関心等に応じて適宜選択して履修できるようにした。

また，各学校においては，学校で特定の科目に決めてしまうのではなく，複数の科目を開設して生徒が選択できるようにすることが望まれる。